



展示資料の出土地

北海道の先史時代と北からの文化の波

年 代	本州の時代区分	北海道の時代区分	北からの文化の波
約3万年前～	後期旧石器時代	後期旧石器時代	第1の文化の波 石刃・細石刃技法 (約1万8000～1万4000年前)
約1万2000年前～	縄文時代 草創期	後期旧石器時代	
約9000年前～	縄文時代 早期	縄文時代 早期	第2の文化の波 石刃縄文化 (約7500～7000年前)
約6000年前～	前期	前期	
約5000年前～	中期	中期	
約4000年前～	後期	後期	
約3000年前～	晩期	晩期	
約2300年前～ (紀元前3世紀～ 紀元後6世紀)	弥生・古墳時代	続縄文時代	第3の文化の波 オホーツク文化 (5～12世紀)
約1400年前～ (7世紀～12世紀)	飛鳥・奈良・ 平安時代	擦文文化期	
約800年前～ (13世紀以降)	鎌倉時代以降	アイヌ文化期	



有孔円盤 (a,c: マッコウクジラ歯製、b,e: クジラ骨製、d,f: 鹿角製 / 川西オホーツク遺跡 (湧別町) / オホーツク文化期 / 北海道立北方民族博物館蔵)

観 覧 料	特 別 展	特別展+常設展
一般	450 (300) 円	800 (740) 円
65歳以上	300円	300円
高校・大学生	200 (160) 円	320円

※()内は10名以上の団体料金

◆北海道立北方民族博物館 (指定管理者: 一般財団法人北方文化振興協会)
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)
TEL 0152-45-3888 / FAX 0152-45-3889 <http://hoppohm.org>

北からの文化の波

Cultural Influence from the North:
From Paleolithic to Okhotsk Cultures in Hokkaido

北海道の旧石器から オホーツク文化まで



人像 (マッコウクジラ歯製 / 浜中2遺跡 (礼文町) / オホーツク文化期 / 礼文町教育委員会蔵、撮影: 佐藤雅彦氏)

2016. 7.16 (土)～10.16 (日) [10.3(月), 11(火)は休館]

開館時間 9:00～17:00 [10月は 9:30～16:30]

会場 北海道立北方民族博物館・特別展示室

主催 北海道立北方民族博物館

協力 大空町教育委員会、市立函館博物館、北海道大学、礼文町教育委員会
熊木俊朗氏、小林貢氏、中沢祐一氏、長沼正樹氏、長谷部一弘氏、
福田正宏氏、藤澤隆史氏

北からの文化の波 北海道の旧石器からオホーツク文化まで

Cultural Influence from the North : From Paleolithic to Okhotsk Cultures in Hokkaido

先史時代、北海道には、北方地域からさまざまな文化的影響が及んでいました。

本特別展では、北海道・サハリン・千島列島から出土した考古資料を通じて、北海道の先史文化における北からの文化の波について紹介します。

第1の波 ◆ 後期旧石器時代 — 石刃技法と細石刃技法

およそ3万年前、北海道に現生人類がはじめてやってきたと考えられています。その後、約18,000～14,000年前には、大陸の北方地域から、「石刃技法」と「細石刃技法」と呼ばれる優れた石器製作の技法が伝わりました。

〈石刃技法〉

石器の素材となる原石を割りやすい形に整形し、細長い形の剥片「石刃」を効率よく連続的に作り出す技法。一般的な石刃は長さ10～20cm、幅2～3cmほどで、ナイフ形石器と呼ばれる槍先用の石器や、スクレイパーと呼ばれる皮なめし用の石器などに加工されました。



石刃（黒曜石製 / 置戸遺跡群（置戸町） / 後期旧石器時代 / 北海道大学蔵）

〈細石刃技法〉

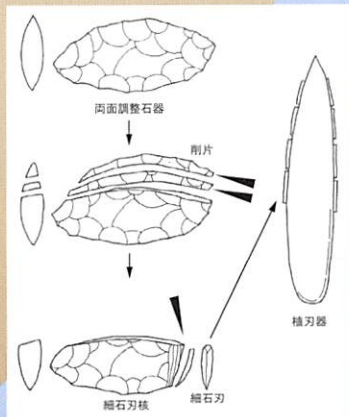
小型の石刃である「細石刃」（長さ2～5cm、幅3～5mm程度）を効率よく連続的に作り出す技法。細石刃は「植刃器」と呼ばれる道具の一部として、骨製や角製の柄に彫った溝に並べてはめ込んで使っていたと考えられます。



細石刃核（黒曜石製 / 置戸遺跡群（置戸町） / 後期旧石器時代 / 北海道大学蔵）



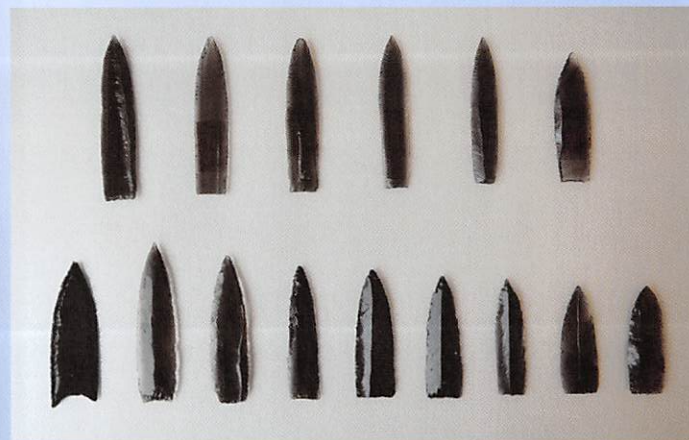
細石刃（黒曜石製 / 置戸遺跡群（置戸町） / 後期旧石器時代 / 北海道大学蔵）



細石刃技法（湧別技法）
参考：稲田孝司 2001『遊動する旧石器人』
岩波書店

第2の波 ◆ 縄文時代早期 — 石刃鏃文化

縄文時代早期のおよそ7,500～7,000年前、アムール川流域・サハリンから北海道に「石刃鏃文化」が流入しました。石刃鏃とは、石刃技法によって作られた鏃です。石刃鏃を伴う文化は、ともに出土する石器や石製品も前後の時期とは異なった特徴をもっているため、石刃鏃文化と呼ばれています。



石刃鏃（黒曜石製 / 豊里石刃鏃遺跡（大空町） / 縄文時代早期 / 大空町教育委員会蔵）

石刃鏃文化の遺跡は、北海道のなかでは東部と中央部に多く分布し、遺跡数は100を超えます。住居跡や墓などの明確な遺構が見つかっていないことから、遊動生活を送っていたと推測されています。

縄文時代前～晩期には南からの文化の影響もみられました。



土器（サイベ沢遺跡（函館市） / 縄文時代中期 / 北海道大学蔵）



スプーン（クジラ骨製 / 浜中2遺跡（礼文町） / オホーツク文化期 / 礼文町教育委員会蔵）

第3の波 ◆ オホーツク文化

続縄文時代前半期にあたる2世紀末から4世紀にかけて、サハリン南部から北海道北部・東部のオホーツク海沿岸地域に広がった鈴谷式土器を伴う文化から「オホーツク文化」の形成がはじまりました。オホーツク文化は、5～7世紀にかけてサハリンから北海道北部・東部、千島列島までのオホーツク海沿岸とその周辺に展開します。その後、8、9世紀頃になると、北海道独自の特色をもった文化へと変容していきます。

オホーツク文化の遺跡では、海獣狩猟具、釣り針などの漁労具、多様な船の存在を示す船形土製品や線刻画などが出土することから、海洋資源に大きく依存する生活を営んでいたと考えられています。



鉋頭（モヨロ貝塚（網走市） / オホーツク文化期 / 北海道大学蔵）



土器（留別遺跡（択捉島） / オホーツク文化期 / 市立函館博物館蔵）

3回にわたって北から及んだ文化の波は、当時の北海道で独自の変化を遂げ、その後の北海道における文化の展開にも大きく影響していくことになるのです。